

サンフランシスコ湾域再生 (米国)

サンフランシスコ湾岸地域は、9つの郡から成り、人口650万人、面積19,400km²である。郡は各々独自の土地利用計画を持っているが、約30年前、毎年10km²のペースで湾が埋め立てられていくことへの地域の人々の懸念から「サンフランシスコ湾保全開発委員会」(San Francisco Bay Conservation and Development Commission: BCDC)が設立された。このBCDCには、年間40億ドルという予算の基に、一つの団体としていろいろな政策決定をしていく権限、すなわち既存の港を守る権限、一般市民のためのレクリエーション施設を作る権限、さらに空港や野生動物の保護区域に関する権限などが与えられるようになった。40億ドルの予算で地域で自治体と協力してさまざまなプロジェクトが実施され、地域経済の活性化を進めている。そのプロジェクトの一つとして、サンフランシスコ湾に流れ込むサクラメントとサンホアキン水系から形成されるカルフェド・ベイ・デルタ地域では、水辺の修復・再生プログラム(カルフェド・ベイ・デルタプログラム)が実行され、上水道の水質、生態系の保全などの分野に対して30年以上の年月をかけて環境を修復していくプログラムが進められている。

◆ 再生のポイント

- 埋め立ての回避・湿地の回復
- 水辺の修復・再生プログラムの実行(カルフェド・ベイ・デルタプログラム)

◆ サンフランシスコ湾の概要

サンフランシスコ湾は南北約70km、幅約20kmの大きさで、太平洋に通じる湾口は2km足らずで閉鎖性が強く、平均水深は約5mと非常に浅い。1800年頃に湾岸一帯に広がっていた湿地のおよそ90%が、塩田や農地を造成するための埋め立てや干拓によって失われ、下水、流失原油、石油精製廃液、化学肥料等による水質汚染等深刻な環境問題を引き起こしていた。



◆ 再生のために実施した事業

【埋め立ての回避・湿地の回復】

この湾では、1800年ごろに湾一帯に広がっていた湿地のおよそ9割が失われ、こうした海岸線の変化を危惧した市民によって、1960年代から湾の開発の規制が進められた。そして、湾岸の生態系や生き物の棲みかを回復するために、湿地の面積を増やすことが目標とされた。湿地の回復作業は、土砂の堆積を人工的に加速すること以外、できるだけ自然の潮の満ち干きに任せて時間をかけて行われており、これは、今までの「インスタント・ウェットランド」に対する反省に立つものだといわれている。出来上がった湿地には、いくつかの絶滅危惧種の生息も確認されている。

【水辺の修復・再生プログラムの実行】

水辺の修復・再生プログラムは上水道の水質、生態系の保全などの分野に対して30年以上の期間をかけて修復・改善するプログラムである。上水道の水質では1000社ほどあるカリフォルニアの上水の代理店に対して環境に適した独自の水を提供し、地域住民の信頼を回復させた。生態系の保全では、4億円に及ぶファンドの基に、生態系保全プロジェクトに提供されている。



サンフランシスコ湾と湿地帯分布の推移 (1850年と2000年の比較)
<http://www.nrdc.org/greengate/wildlife/wetlands.html>

出典：「水産海洋研究」64巻1号2000 水産海洋学会編

(http://hiroshima.cool.ne.jp/kan_ootagawa/Pre_Html/NEWS6/Section/kaki/seiki.htm)

アメリカ干潟保全事情 (<http://www31.ocn.ne.jp/~adachih/sanban-ze/kaigi/hatakeyama.htm>)

JICE Report vol.4 2003.11 国際フォーラム「流域の総合的管理と住民のパートナーシップ、合意形成

(http://www.jice.or.jp/jice_report/pdf04/jice_rpt04_14.pdf)